

小児白血病の長期生存率に関する検討

(分担研究：小児期白血病患者の生存の質改善に関する研究)

月本一郎，土田昌宏，沢 文博

要約：1966～1988年までの22年間に、日本小児血液学会に参加する39施設に受診した小児白血病4066例の長期生存率を検討した。各年度毎の5年以上生存率（寛解率）は、ALLでは66～70年10.2（4.4）％，71～75年25.2（11.6）％，76～80年44.7（28.1）％，81～83年61.7（46.7）％であった。ANLLでは66～70年2.5（2.5）％，71～75年7.5（4.3）％，76～80年10.6（6.4）％，81～85年29.3（21.3）％であった。

見出し語：小児白血病，長期生存率

緒言：本研究の目的は、本邦における小児白血病の長期生存の実態を明らかにすることにある。この結果をもとに、我が国における過去の治療成績を把握し、今後の治療法の改善に関与することにある。

対象ならびに方法：対象は1966年1月1日～1988年12月31日までの22年間に、日本小児血液学会に参加する39施設で治療を受けた4066例である。

年齢分布は0～15歳，平均5.2歳であり，性差は男2322例，女1744例，男女比は1.3：1であった。

病型分布は，各協力者の病型分類にしたがったが，AUL（未分化型）としたものはALLとして扱った。その内訳はALL2894例（71.1％），ANLL

1064例（26.2％），CML65例（1.6％），不明44例（1.1％）であった。

各年度毎の生存率および寛解率は，1988年12月31日の時点で算出した。

結果ならびに考按：各年度毎の5年以上生存率および寛解維持率，3年以上生存率を表2，図1に示した。

ALLの5年以上生存率は，中枢神経白血病予防療法が行われなかった1966～1970年では10.2％，MTX定期的髄注が取入れられた1971～1975年では25.2％，頭蓋予防照射が取入れられた1976～80年では44.7％，リスク別による強力な治療が取入れられた1981年以後は61.7％となっている。3年生存率

で見ると、83年以後は約70%のところでは plateau になっている。

一方、ANLLの5年以上生存率は、1978年までは10%前後であったが、1980年以後は急速に改善し1983年には約30%に達している。3年以上生存率も1985年には約80%に達し、ALLに近づいているように見える。

近い将来5年以上寛解率はALLは約70%、ANLLでは約40%位になるであろう。

表1. 研究協力施設

久留米大,	山形大,	旭川医大
北海道大,	独協医大第二,	磐城市立病院
長崎大,	岐阜大,	国立大阪病院
名古屋第1日赤,	日本医大,	静岡こども病院
金沢大,	神戸市民病院,	弘前大
信州大,	昭和大藤が丘,	岡山大
鳥取大,	九州大,	奈良県立医大
慈恵医大,	三重大,	東京大
横浜市立大	浜松医大,	慶応大
大阪医大,	東邦大,	京都府立大
佐賀医大,	秋田大,	豊橋市民病院
国立小児病院(田口, 小出),	聖路加国際病院	
九州ガンセンター,	聖マリアンナ医大	
神奈川県立こども医療センター		

表2. 発症年度別長期生存率

	S 41 - 45	S 46 - 50	S 51 - 55	S 56 - 58
症例数	543	912	1165	699
病型				
ALL	321(59.1)	638(70.0)	860(73.8)	520(74.4)
ANLL	198(36.5)	253(27.7)	283(24.3)	164(23.5)
5年以上生存率				
ALL	33(10.2)	161(25.2)	384(44.7)	321(61.7)
ANLL	5(2.5)	19(7.5)	36(10.6)	48(29.3)
5年以上寛解率				
ALL	14(4.4)	74(11.6)	242(28.1)	243(46.7)
ANLL	5(2.5)	11(4.3)	18(6.4)	35(21.3)
3年以上生存率				
ALL	60(18.7)	258(40.4)	490(57.0)	365(70.2)
ANLL	11(5.6)	28(11.1)	43(15.2)	63(38.4)

() 長期生存率

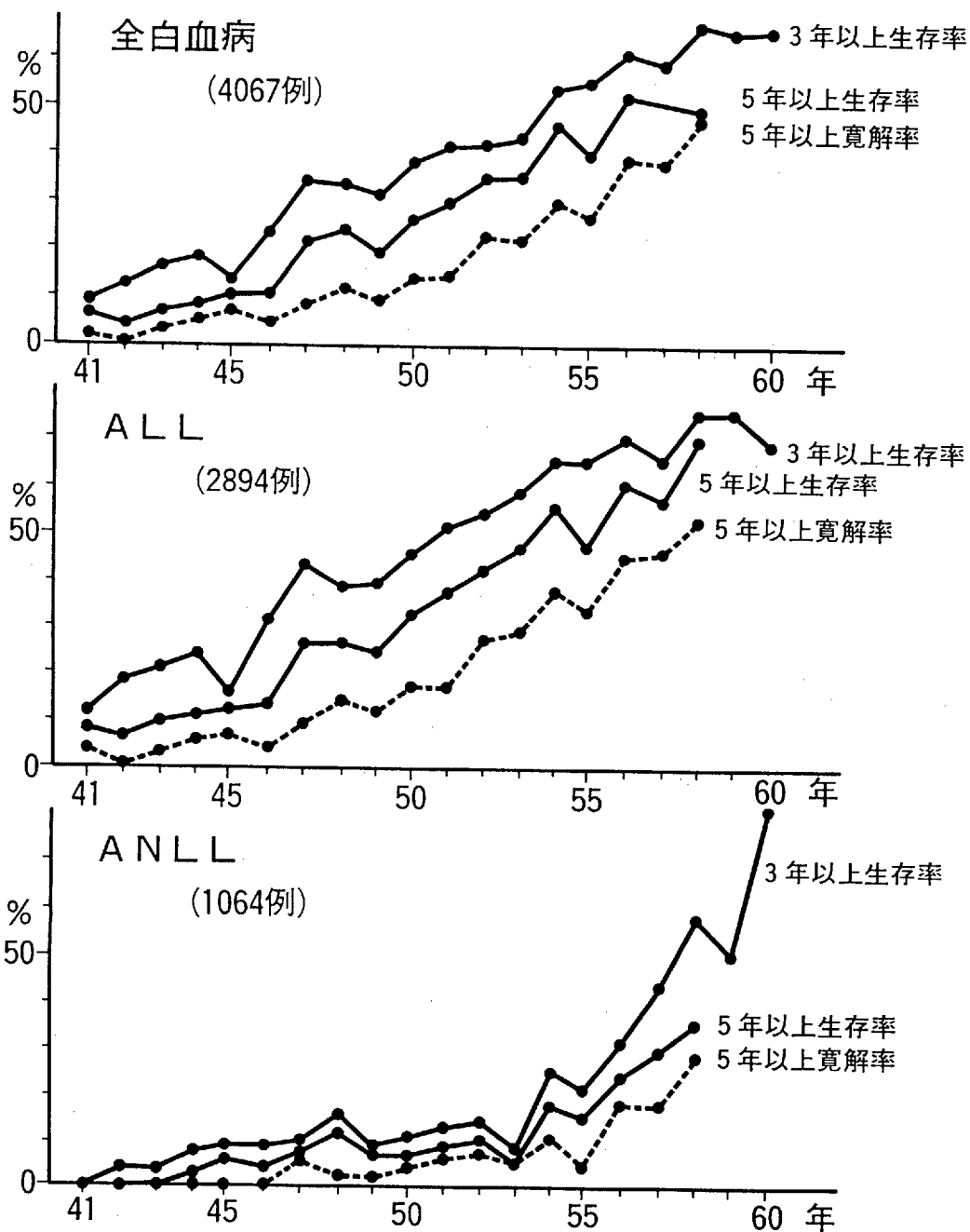


図1. 小児白血病の長期生存率



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:1966~1988年1までの22年間に、日本小児血液学会に参加する39施設に受診した小児白血病4066例の長期生存率を検討した。各年度毎の5年以上生存率(寛解率)は、ALLでは66~70年10.2(4.4)%,71~75年25.2(11.6)%,76~80年44.7(28.1)%,81~83年61.7(46.7)%であった。ANLLでは66~70年2.5(2.5)%,71~75年7.5(4.3)%,76~80年10.6(6.4)%,81~85年29.3(21.3)%であった。